

## い草水耕栽培・早期生育技術開発プロジェクト

生物化学システム工学科 准教授 木原久美子

### 1. はじめに

イグサ栽培は日本の畳文化を支える産業で、今日ではイグサの国内生産の9割以上が熊本県八代市で行われています。しかし、イグサの生産量も作付面積も年々減少しています。その理由は、消費者の生活スタイルの変化に伴う畳の消費量の減少・外国産の安価の畳の登場・化学畳の開発に加え、イグサ農家の高齢化・重労働を伴うイ業の継承者の減少にあります。その一方で、畳は日本文化として古来から生活に根付いており、現代においても国民の生活の中でごく普通に畳文化は継承されています。住宅に畳が全く存在しない家は少なく、自然素材を用いた畳の良さが生活環境として見直されている現状でもあります。このような状況の中で、イグサの生産・加工に関する現場では、重労働を軽減し高効率に生産性を上げる方法の開拓が求められています。例えば、1年に1回の頻度で収穫する現行型を1年に複数回の頻度で収穫できる形にかえたり、収穫家業型のイグサ生産から企業型のイグサ生産へと移行したりすることも解決策のひとつと考えられますが、現行の農作業行程はその変換に必ずしも適しているわけではありません。そこで本研究プロジェクトでは、現代や近い未来の時代背景に見合う、少子高齢化によって人手が少なくとも高効率に生産できるようなイグサ栽培技術の開発を目的としています。

### 2. 活動内容

「い草水耕栽培・早期生育技術開発プロジェクト」では、イグサの水耕栽培および早期生育技術を開発すると共に、その技術の実用化を図り、イグサや畳表の産地の活性化と安定的振興に寄与することを目的としています。イグサは露地栽培が普通ですが、本研究では室内環境下での栽培を視野に入れています。これまでにイグサの水耕栽培に関する報告はほとんどありませんが、栽培条件をうまく求めていくことによって、水耕栽培を可能に出来る可能性があります。また、その過程において、イグサの生育期間を短縮し「長イ」を効率的に生産する方法を探索します。

研究は、イ業にかかわる研究者・生産農家・加工業者等の多くの人々、行政・地域の協力を受けて、前に進んでいる状況です（写真；イグサの専門家から苗割りの方法を教えてもらっている学生達）。

### 3. おわりに

イグサの栽培技術は、古くから、ここ八代にて発展しながら受け継がれてきました。その先人の知恵と努力を糧としながらも、現代の時代背景に適した形で、栽培技術や生産量を維持していけるような方法を模索・実現化していきたいと考えています。

